

2025年3月30日

「慰めと救い」

コリントの信徒への手紙二 1:3-7

早川 真牧師

今朝与えられた聖書の箇所は、伝道者パウロがコリントの教会の信徒に書き送った手紙の一部だ。コリントの教会はパウロが伝道旅行において創設した教会でありました。しかし、パウロが去った後パウロの教えた福音の道から外れ、パウロに対して使徒としての資格まで否定する人たちまで現れたようです。パウロは、自分の愛するコリントの信徒たちに否定されて、大きく傷つき、苦しんだことと思います。しかしその時、パウロの苦しみはキリストの苦しみと深く結びついたに違いありません。

苦難に打ち倒される時、私たちは深い傷を負うことでしょう。しかし目をイエス・キリストに向けると、その傷は癒され、今度は他者の傷を癒すために用いられていくとパウロは語ります。そのようにして神の救いのわざは進展していきます。私たちの内にキリストの苦しみがいっぱい溢れる時、キリストの慰めもまたいっぱい溢れ、その慰めは同じように苦しんでいる人にまで私たちを超えて溢れ及ぶということがここに示されています。

今日は今年度最後の主日です。今年度私たちもまた、多くのキリストの苦しみを与えられてきたのではないかと思います。今もなお、苦しみの中で悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに過ごしておられる方もいるかもしれません。しかし、イエス・キリストも、パウロも、時に倒れ、時に叫び、時に涙を流しながら、この地上の生涯を歩まれました。しかし圧迫され、押しつぶされても、そこから神によって復活させられたのでした。私たちは、苦しみの中に、慰めをいっぱい溢れるほどに注いでくださる救いの神に希望を置いて、主にある喜びの内に新しい年度に向かってまいりたいと思います。